

3章 伊豆の国市の歴史文化の特徴

1 歴史文化の特徴の設定

本市の地域の歴史やそれに関係する人物及び物、古代から現代に至る自然等環境を総体的に把握した概念である「歴史文化の特徴」は、以下のものである。

- ・時代別の特徴 : 日本史上の複数の大きな転換期・変革期にその胎動部分の舞台となってきたことを誇りとし、特に大きな変革をもたらした時代を中心に時代区分を捉え、以下の5つの特徴とした。

①人の定着からイズノクニ形成への足跡

旧石器・縄文から農耕社会への移行を経て、大和王権の地方社会としての先進性をもった「伊豆」が成立した。

②武士の世のはじまり・中世の東国動乱の要の地

源頼朝の挙兵など、鎌倉幕府成立から室町幕府の東国支配に強く関わる地である。また、中世を通じて東国の中心のひとつとして存続し、武士の世の歴史が始まる一端となった。

③戦国時代の幕開けから天下統一布石の地へ

戦国時代を通じて小田原北条氏の拠点となった地である。また、豊臣秀吉の天下統一の布石の地となった。

④幕府直轄の代官支配地

近世の江戸の守りの要地として、蕨山代官支配の中心地となる。

⑤近代産業への飛躍の一翼

幕末の動乱期、蕨山代官江川氏を中心とした洋学研究の拠点となり、蕨山反射炉の建造等近代産業胎動の舞台となる。

- ・時を超える特徴 : 古代から現代へと、一部、形を変えつつも普遍的に存在してきた自然や通路等の環境が、歴史事象の舞台となり、文化の土壌となってきたこと自体を、全時代を貫く特徴とした。

⑥山川自然のもとで現代に続く地域文化

時を超えて現代へ続く、富士山・狩野川・温泉など自然の恵みに育まれた独自の地域文化が根付き、祭事等の伝統が継承されている。

また、上記①から⑥までの歴史文化の特徴について、図3-1及び表3-2に示す。

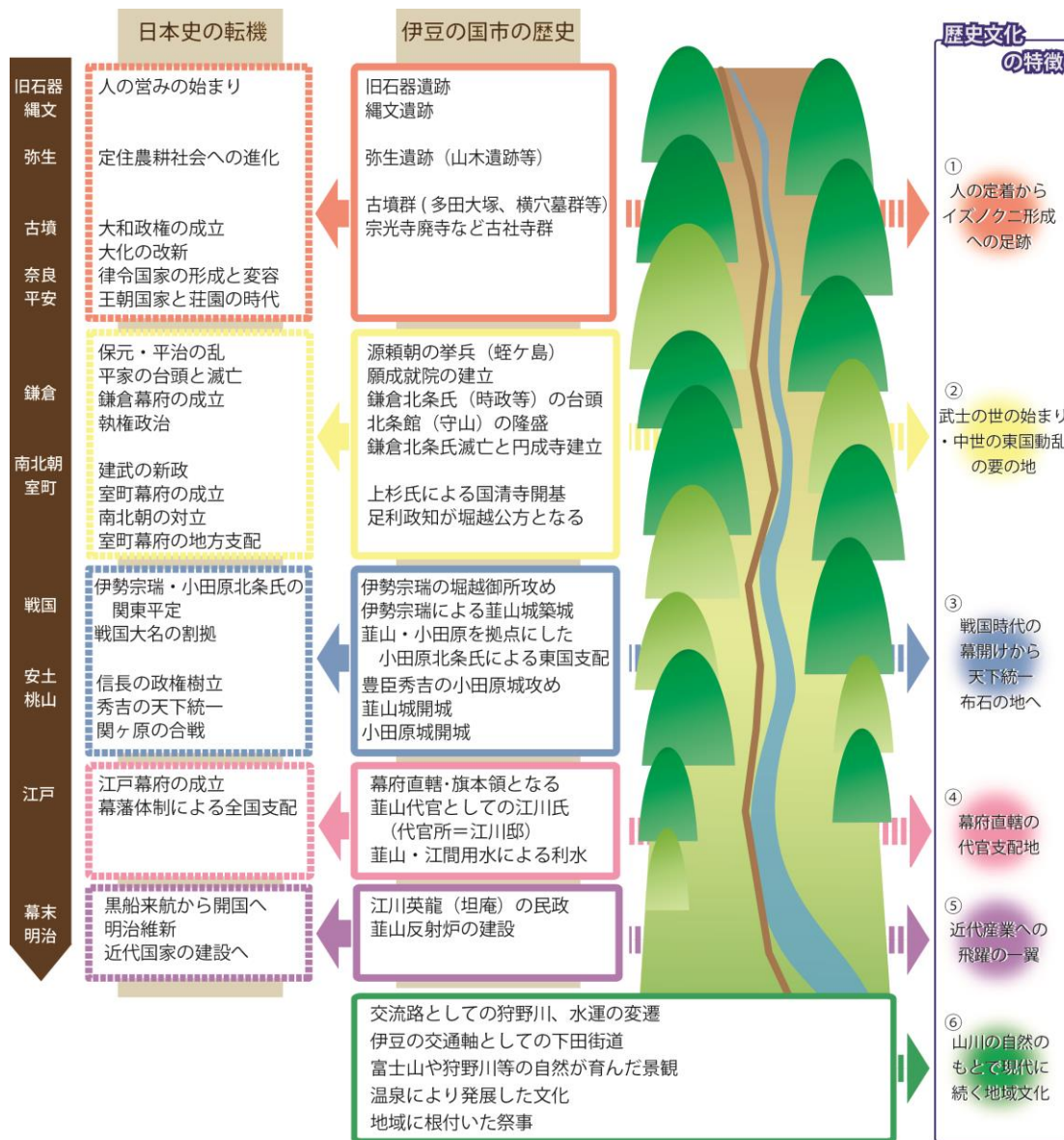


図3-1 歴史文化の特徴

3章 伊豆の国市の歴史文化の特徴

表 3-2 歴史文化の特徴一覧

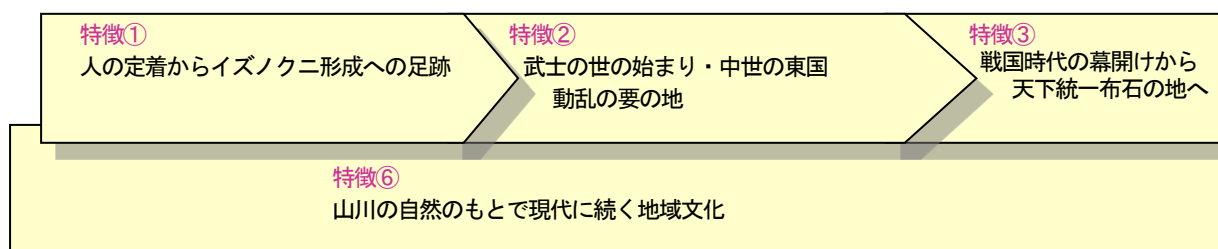
特徴① 人の定着からイズノクニ形成への足跡	
旧石器・縄文から農耕社会への移行を経て、大和王権の地方社会としての先進性をもった「伊豆」が成立する。	
時代	キーワード
旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代（原始・古代）	旧石器から縄文時代の遺跡や遺物群 山木遺跡の農耕生活 古墳群や古社寺等が伝える伊豆国成立
関連する主な文化財	関連するひと・もの
仲道A遺跡出土 縄文草創期遺物 山木遺跡の生産・生活用具 大塚4号墳出土遺物・大塚6号墳出土遺物 北江間横穴群 白石の石棺	縄文時代の村 弥生時代の水田 若舎人

特徴② 武士の世の始まり・中世の東国動乱の要の地	
中世を通じて東国の中心のひとつとして存続した。武士の世の歴史ここに始まる。	
時代	キーワード
平安時代末期・鎌倉時代・南北朝時代・室町時代（中世）	源頼朝挙兵と鎌倉幕府成立 鎌倉幕府執権北条氏の本拠地 畠山国清と関東管領上杉氏
関連する主な文化財	関連するひと・もの
北条氏邸跡（円成寺跡） 願成就院と運慶作諸仏 本立寺の梵鐘 国清寺の仏像	源頼朝 北条時政・政子 円成尼 畠山国清

特徴③ 戦国時代の幕開けから天下統一布石の地へ	
戦国時代を通じて小田原北条氏の拠点となる。豊臣秀吉の天下統一の布石の地ともなった。	
時代	キーワード
戦国時代・安土桃山時代（中世後期）	伊勢宗瑞の堀越御所攻め 小田原北条氏の東国支配 豊臣秀吉の小田原攻め
関連する主な文化財	関連するひと・もの
伝堀越御所跡 韮山城跡及び付城跡群 香山寺文書	堀越公方足利政知 茶々丸 伊勢宗瑞 豊臣秀吉

古代

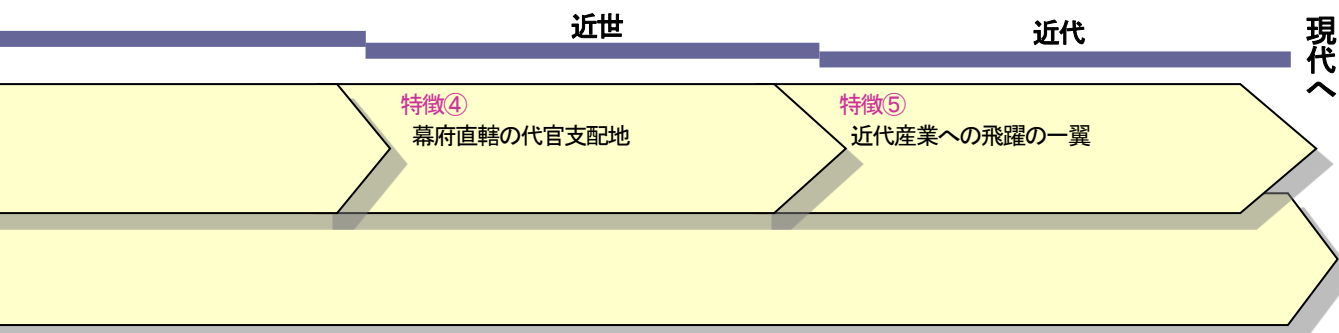
中世



特徴④ 幕府直轄の代官支配地	
江戸の守りの要地として、葦山代官支配の中心地となる。	
時代	キーワード
江戸時代（近世）	幕府代官による地域支配 葦山代官江川家
関連する主な文化財	関連するひと・もの
にらやまやくしよあと 葦山役所跡 えがわけじゅうたく 江川家住宅 にらやまだいかんえがわけかんけいしりょう 葦山代官江川家関係資料 きゅううえのけじゅうたく 旧上野家住宅 すがぬまけじゅうたく 菅沼家住宅	ないどうのぶなり 内藤信成 えがわひでなが 江川英長

特徴⑤ 近代産業への飛躍の一翼	
幕末の動乱期、洋学研究の拠点として、近代産業胎動の舞台となる。	
時代	キーワード
幕末～明治維新（近代）	ペリー来航と開国 海防・洋学研究 近代化産業遺産
関連する主な文化財	関連するひと・もの
にらやまはんしやろ 葦山反射炉 にらやまやくしよあと 葦山役所跡 にらやまだいかんえがわけかんけいしりょう 葦山代官江川家関係資料 えがわけかんけいしん 江川家関係写真	えがわひでたつ 江川英龍 えがわひでたけ 江川英武

特徴⑥ 山川の自然のもとで現代に続く地域文化	
富士山・狩野川・温泉など自然の恵みに独自の地域文化が根付き、祭事等の伝承が継承されている。	
時代	キーワード
時を超えて現代へ	狩野川の育む地域文化 下田街道がつなぐ人・物・文化 温泉文化
関連する主な文化財	関連するひと・もの
かわかんじょう たきょうさんぽそうみふく 田京の三番叟・三福の三番叟・大仁の三番叟 さんようそう 三養荘	眺望できる富士山 下田街道 えませき 江間堰



2 歴史文化の特徴

①人の定着からイズノクニ形成への足跡

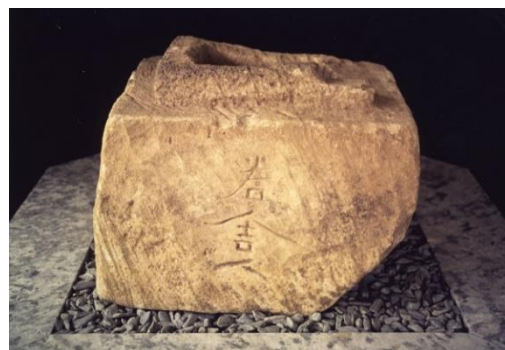
◆旧石器・縄文時代から農耕社会への移行を経て、大和王権の地方社会としての先進性をもった「伊豆」が成立する。

◆時代：旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代（原始・古代）

- この歴史文化の特徴は、旧石器・縄文時代の遺跡から、山木遺跡に代表される弥生時代の生活や生産の遺構、さらには5～8世紀前半ごろに築かれた古墳群や、奈良・平安時代の仏教文化の普及などを伝える事物等に特徴付けられる。また、公蔵免遺跡で出土した遺物は、東海地方と関東地方の交流を示す資料である。
- 市内東部には旧石器・縄文遺跡が多く分布しており、仲道A遺跡で出土した草創期の縄文土器は全国的な土器編年の基準となる資料である。
- 伊豆の国市の弥生時代遺跡は、水田遺構が多いことが特徴的で、特に、山木遺跡は学史上著名な遺跡である。古墳時代初頭の中央政権の影響をいち早く受けて成立した集落であり、ここで出土した木製品・土器などの遺物は、当時の農耕技術や建築物を示す貴重なものである。
- 古墳時代には、市内にも多くの古墳がつくられ、このうち、多田大塚古墳群は、5～6世紀の古墳群で、太刀・鉄鏃・鏡・短甲・馬具や人物・円筒埴輪など、当時の権力を示す副葬品が多数出土している。市内唯一の前方後円墳である駒形1号墳では、人物埴輪が出土している。
- 笠石山遺跡は、5世紀後半の洞穴墓で、須恵器や銚等が出土し、地域の墓制を考える上で重要である。
- 7世紀後半から8世紀前半にかけて、江間区域や大仁区域で横穴墓がつくられ、北江間横穴群からは「若舎人」の文字が刻まれた石櫃が出土している。「白石の石棺」は洞古墳の埋葬施設であり、東日本では希少な横口式石槨である。
- 天武9年（680）、駿河国から伊豆国が分置されたとされ、8世紀初頭に田方・那賀・賀茂の3郡が設置されている。伊豆の国市は田方郡に含まれる。
- 花坂島橋古窯址群は三島にある伊豆国分寺の瓦を生産した遺跡であり、ここで焼かれた特殊な須恵器の壺は長岡京や平安京にも運ばれた。また、広瀬神社は、平安時代の「延喜式神名帳」に見られる式内社に比定される。



北江間横穴群



石櫃 若舎人の刻銘がある
(北江間横穴群出土)

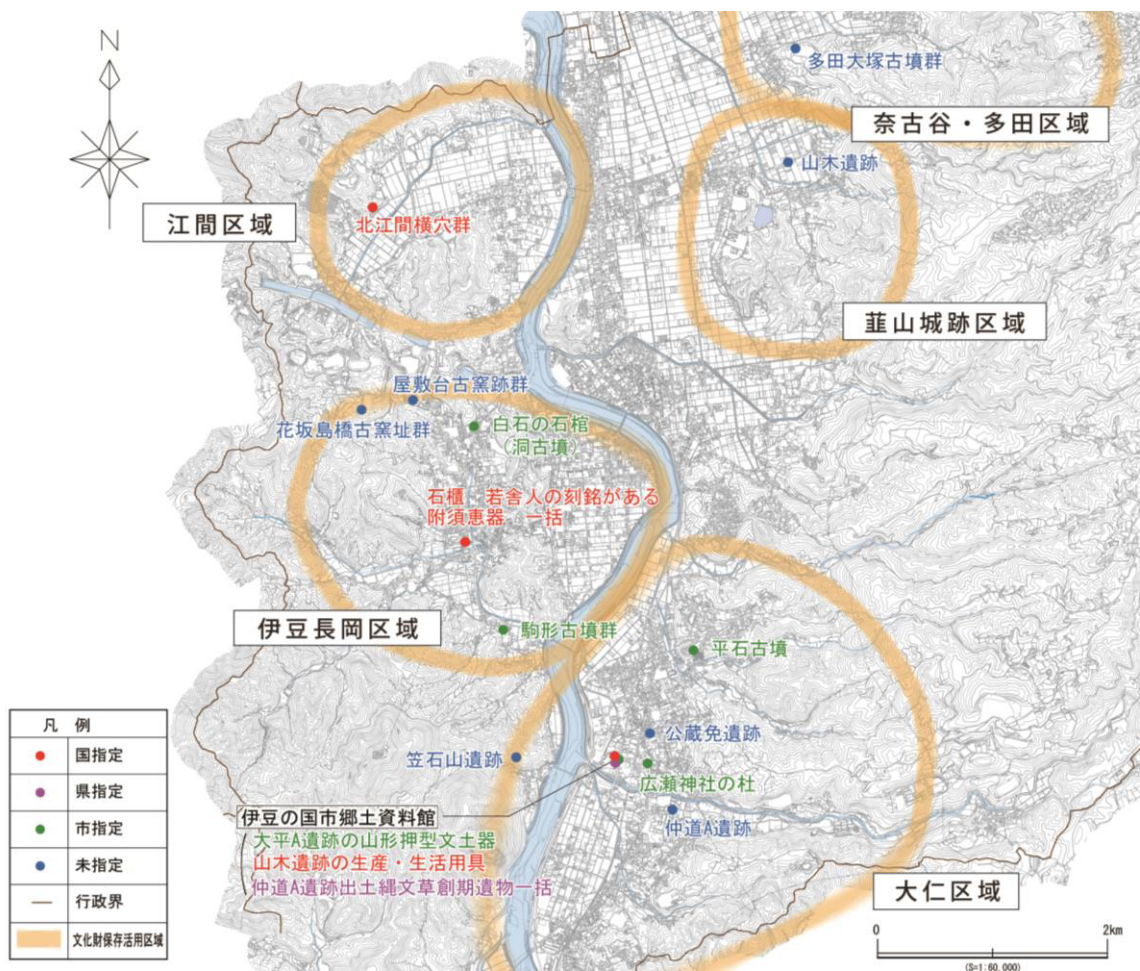


図 3-2 「人の定着からイズノクニへの足跡」に関連する主な文化財の分布

※図 3-2 から 3-6 中の区域の詳細については、第 7 章 1 節に記載する。

②武士の世のはじまり・中世の東国動乱の要の地

◆中世を通じて東国の中心のひとつとして存続した。武士の世の歴史ここにはじまる。

◆時代：平安時代末期・鎌倉時代・南北朝時代・室町時代（中世）

- この歴史文化の特徴は、鎌倉幕府成立から室町幕府の東国支配に強く関わる、源頼朝の挙兵、北条時政と政子、鎌倉幕府と鎌倉北条氏の執権政治、鎌倉北条氏滅亡と円成寺、畠山国清、関東管領山内上杉氏、堀越公方などに特徴付けられる。
- 源頼朝が配流されたと伝えられるのが蛭ヶ島（比定地に蛭島碑あり）であり、ここで挙兵した頼朝が最初に襲撃したのが平家方の山木判官兼隆の館で、葦山城跡の東に山木兼隆館跡推定地がある。
- 鎌倉時代に絶大な権力を握った鎌倉北条氏の本拠地であった守山周辺には、鎌倉北条氏の館跡である北条氏邸跡や鎌倉北条氏の氏寺である願成就院などが集積し、国宝木造阿弥陀如来坐像運慶作等の仏像をはじめとする有形文化財が多く所在する。また、鎌倉幕府滅亡後、鎌倉北条一族の子女が拠ったところとされる円成寺跡が、北条氏邸跡と同じ場所の発掘調査で確認されている。その他、この時代に関連する文化財が伊豆長岡・江間区域にも分布している。
- 南北朝、室町時代にも葦山は室町幕府の東国支配の重要拠点となり、関東管領の山内上杉氏が奈古谷に菩提寺として国清寺を建立し、その一帯を伊豆の本拠地とした。国清寺周辺には関連する多くの歴史的価値の高い文化財が分布している。大仁地区には、鎌倉公方足利基氏に背いた畠山国清が立て籠もって鎌倉軍と戦った神益城（金山城）がある。
- 室町時代後期には、東国の混乱を鎮めるために足利政知が下向し、守山区域に本拠地として堀越御所を構えた。
- 文化財群は、守山区域と奈古谷・多田区域を中心に、複数の区域にわたり分布している。



史跡北条氏邸跡（円成寺跡）



蛭ヶ島碑記

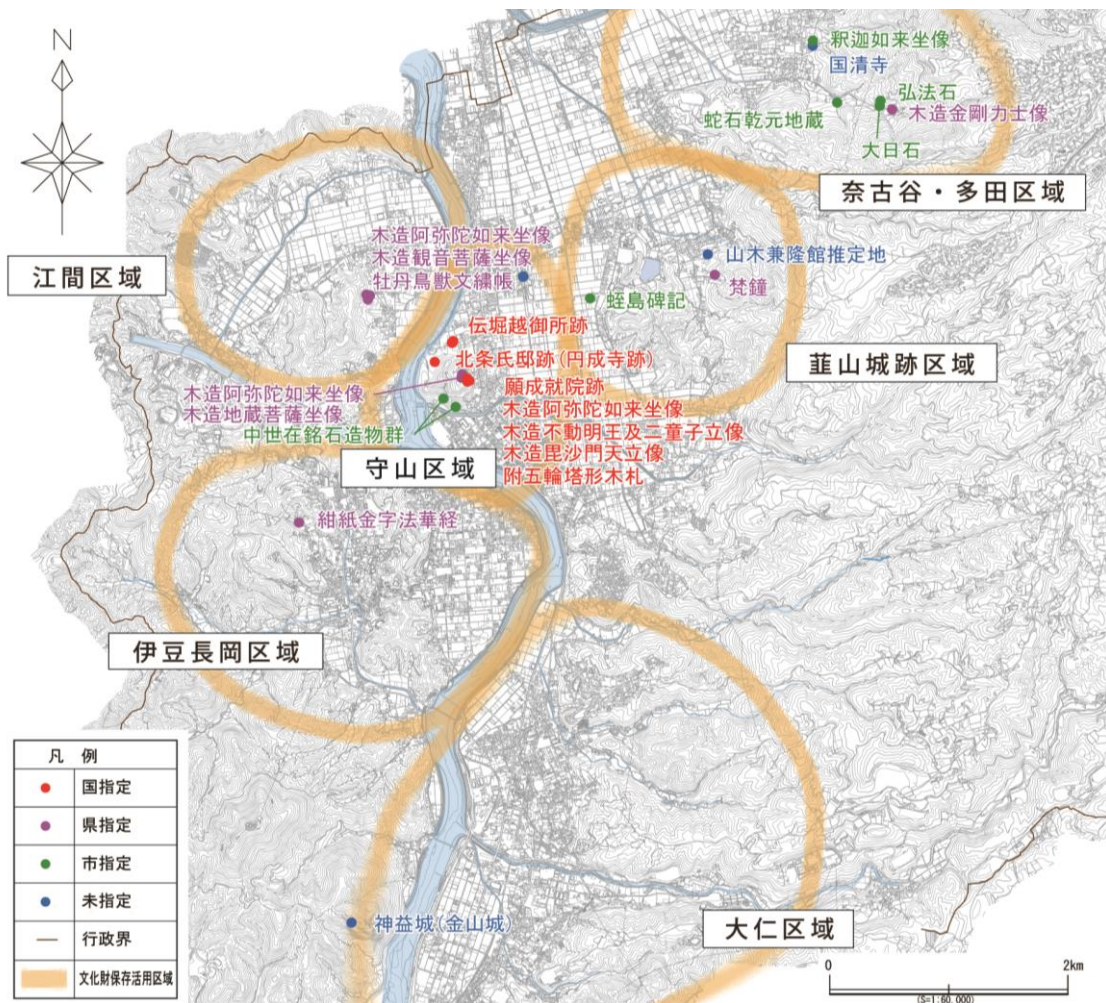


図 3-3 「武士の世の始まり・中世の東国動乱の要の地」に関連する主な文化財の分布

③戦国時代の幕開けから天下統一布石の地へ

◆戦国時代を通じて小田原北条氏の拠点となる。豊臣秀吉の天下統一の布石の地にもなった。

◆時代：戦国時代・安土桃山時代（中世末期）

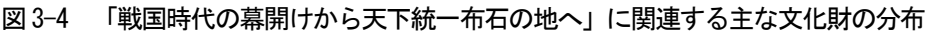
- この歴史文化の特徴は、伊勢宗瑞（北条早雲）の堀越御所攻めから始まる伊豆平定、韮山城築城により、その後の戦国時代を通じて、小田原北条氏の東国支配の拠点であったことを伝える様々な文化財、豊臣秀吉の小田原攻めに伴う韮山城の攻防などに特徴付けられる。
- 伊勢宗瑞は堀越御所を襲撃し、伊豆支配の第一歩とした。その後築城された韮山城は、戦国時代を通じて小田原北条氏による伊豆支配、東国支配の拠点となり、この時代の中心をなす文化財である。韮山城跡は、本城や要害、城下町を含む約94万㎡の広大な城郭跡であり、土塁や堀などの遺構が良好に残っている。低地部分では、発掘調査により堀や屋敷跡・道路跡・庭園跡などの存在が判明している。
- 戦国時代になって国清寺は前代より衰えたものの、職人集団が奈古谷地区に残り、韮山城を支える役割を果たしたとされる。
- 香山寺は伊勢宗瑞が再興したという伝承があり、境内に六地藏石幢や石塔残欠が残る。また、本立寺は江川家24代英盛が永正3年（1506）に邸内の大乘庵を移して建立したと伝えられる。
- 韮山城跡東側の金谷・山木の集落は、韮山城の内宿（城下町）であった可能性が指摘されている。また、下田街道は戦国時代にも交通・流通の動脈であり、四日町には市があつて賑わい、小田原北条氏の蔵が建てられていた。
- 天正18年（1590）の韮山城の攻防を物語る遺構として、豊臣秀吉が築いた付城跡が残っている。現在、韮山城跡東側の丘陵部には、太閤陣場付城跡・本立寺付城跡・追越山付城跡・上山田付城跡・昌溪院付城跡の5つの付城跡、西側の低地部には木戸稻荷付城跡があり、計6ヶ所の付城跡が埋蔵文化財包蔵地に登録されている。これらは、戦国時代末期の攻城戦の実態がうかがい知ることのできる文化財である。



伝堀越御所跡



韮山城跡（龍城山）



④幕府直轄の代官支配地

◆江戸の守りの要地として、菰山代官支配の中心地となる。

◆時代：江戸時代（近世）

- この歴史文化の特徴は、近世を通じて菰山代官であった江川家やその治世、また、その時代の民俗文化を伝える事物などに特徴付けられる。江川家の先祖、江川英長^{えがわひでなが}は天正18年（1590）豊臣秀吉による小田原攻めの際、徳川家康^{とくがわいえやす}の旗本として加わった。そのことにより、家康の関東入部後は、5千石余り（最大時26万石）を支配する代官として存続した。寛永期^{かんえい}から三島代官と並立する吏僚的代官（菰山代官）となり、宝暦8年（1758）の三島代官廃止後は伊豆・駿河・武蔵・相模の天領を支配する菰山代官職を世襲して幕末を迎えた。
- 菰山城跡の北東端部に、江川家の私邸である重要文化財江川家住宅があり、約400年前に建てられたと推定される主屋をはじめ、書院・仏間・門・土蔵などの歴史的建造物が残されている。また、江川家住宅の敷地を含む一帯は、江戸時代から明治時代中頃まで、地方行政の中心的な役割を果たした場所として、史跡菰山役所跡となっている。江川家に伝えられた古文書・書籍・書画・武具類のうち、特に重要な3万8千点あまりが、菰山代官江川家関係資料として重要文化財に指定されている。
- 江戸時代の生活様式を今に伝える住宅建築も重要な文化財である。江戸時代中期の民家である静岡県指定文化財旧上野家住宅（伊豆の国市歴史民俗資料館）が蛭ヶ島公園^{ひるがしま}の一角にあるが、これは市内菰山土手和田地区から移築されたものである。

また、大仁区域^{よしだ}の吉田には、文化5年（1808）頃の建築と推定される国登録有形文化財旧菅沼家住宅^{すがぬま}（知半庵^{ちはんあん}）がある。菅沼家は、江戸時代吉田村の名主を務め、明治・大正期には田中村の村長を務めた菅沼荘治^{そうじ}を輩出している。
- 市の有形文化財に指定されている神益中島村絵図^{かんますなかじまむらえず}は、寛政10年（1798）に描かれたもので、大仁を中心とした地域の江戸時代の様相を伝える貴重なものである。
- 田京^{たきょう}の三番叟^{さんぱんそう}（式三番^{しきさんぱ}）は、天保3年（1832）と書かれた台本^{てんぼう}が残っており、江戸時代後期までさかのぼる伝統ある民俗文化財である。



江川家住宅 表門



旧菅沼家住宅（知半庵）

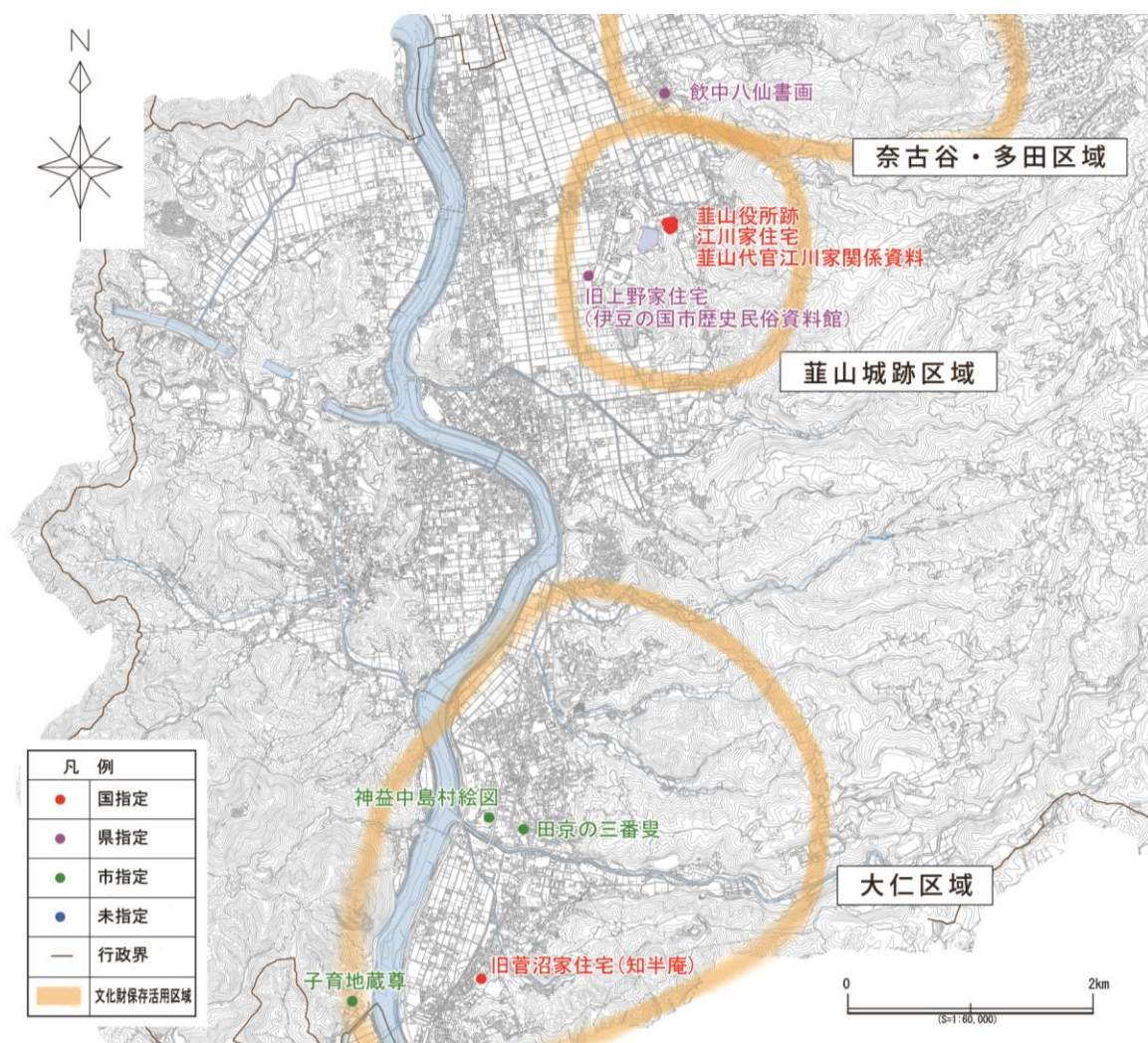


図 3-5 「幕府直轄の代官支配地」に関連する主な文化財の分布

⑤近代産業への飛躍の一翼

◆幕末の動乱期、洋学研究の拠点として、近代産業胎動の舞台となる。

◆時代：幕末～明治維新（近代）

- この歴史文化の特徴は、天保6年（1835）に菰山代官になった江川太郎左衛門英龍（坦庵）の治績を中心とした事物などに特徴付けられる。特に、幕末期における近代製鉄技術の導入に貢献した菰山反射炉がその象徴的なものである。
- 菰山反射炉は、日本における近代的な製鉄技術導入の黎明期を象徴するもので、江川英武の女婿である山田三良（帝国学士院長）を中心とした保存運動の展開を受けて、明治41年（1908）に陸軍省による保存修理が行われ、大正11年（1922）3月8日に国の史跡に指定された。それ以降複数回の大規模な保存修理を経て、現在に至っている。また、平成27年（2015）7月に、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界文化遺産に登録された。
- 江戸時代を通じて地方行政の中核機能を担った菰山代官所は、幕末期の江川英龍やそれ以降の時期においても、時代を拓く様々な政策の拠点であった。史跡菰山役所跡は、重要文化財江川家住宅の敷地を含んでいる。さらに、敷地内の建造物には、重要文化財菰山代官江川家関係資料・重要文化財江川家関係写真が所在する。重要文化財菰山代官江川家関係資料には、幕末の海防・西洋技術に関する資料が含まれ、江川家関係写真は、ジョン万次郎撮影の古写真を含む幕末から明治時代前半にかけての貴重な写真が含まれている。
- 明治維新にあたり、菰山代官江川英武はいち早く新政府に帰順し、伊豆・武蔵17万石を所管する菰山県が誕生し、江川英武が初代知事となった歴史がある。その後、明治4年（1871）の廃藩置県により菰山県は解体した。
- 香山寺の山門は、明治6年（1873）開業の伊豆国生産会社の正門を移転したものとされている。



菰山反射炉



香山寺山門

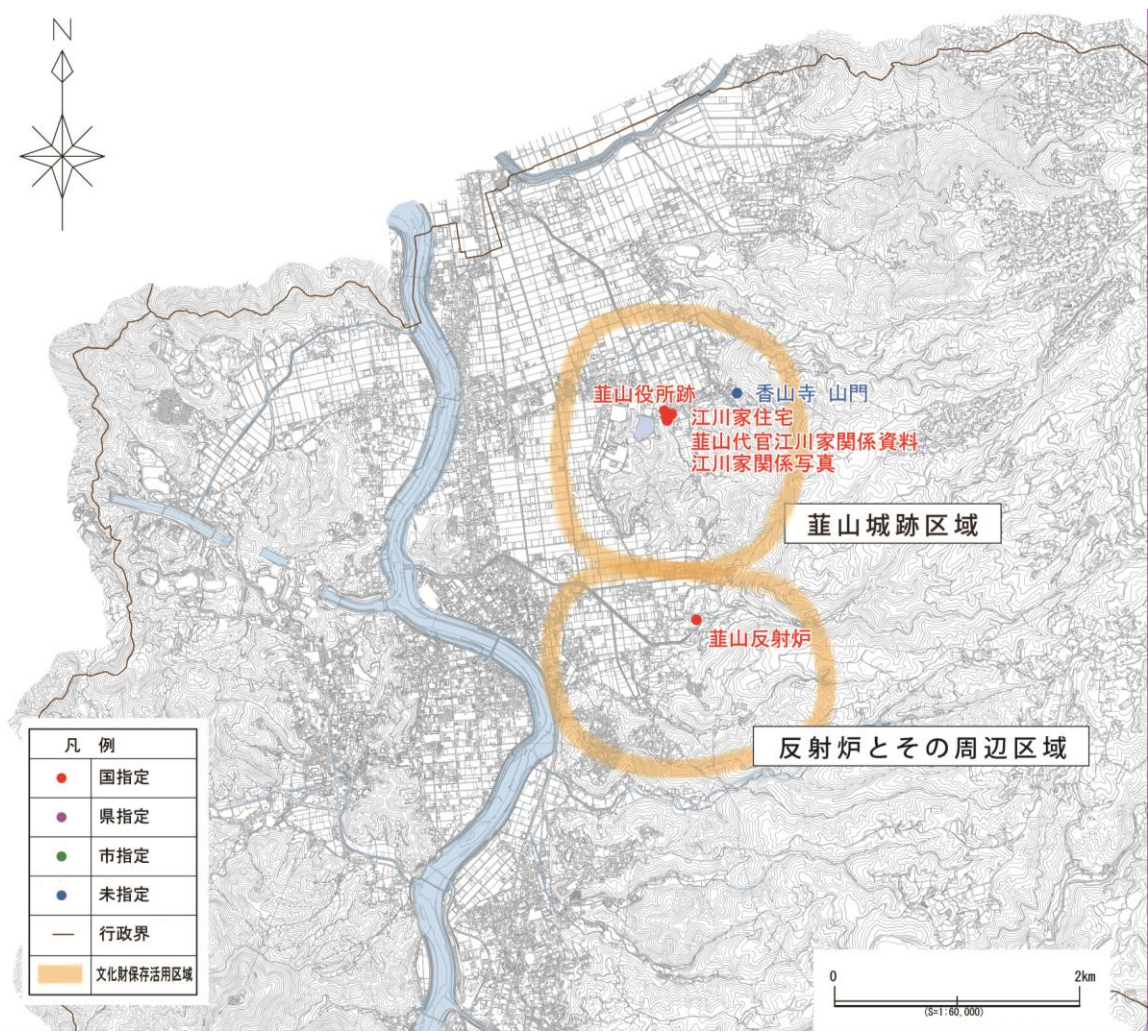


図 3-6 「近代産業への飛躍の一翼」に関連する主な文化財の分布

⑥山川の自然のもとで現代に続く地域文化

◆富士山・狩野川・温泉など自然の恵みに育まれた独自の地域文化が根付き、祭事等の伝統が継承されている。

◆時代：時を超えて現代へ

- この歴史文化の特徴は、古代から近代までの時代を貫く、狩野川や温泉など自然環境やその周辺で発展した文化に特徴付けられる。
- 富士山は、市域の広い範囲から眺められるが、韮山城跡区域にある韮山役所跡（江川邸）もそのひとつである。寛政5年（1793）、老中松平定信が、海防巡見のために伊豆を訪れた際、江川邸に立ち寄り、裏門から見える富士山が素晴らしいとして、伴っていた御用絵師谷文晁に命じて絵に描かせたというエピソードが伝えられている。また、江川文庫には、江川英龍の描いた「富士山画賛」が所蔵されている。
- 下田街道は、東海道の宿場町である三島に置かれた国府と伊豆国の南の地域を結ぶ重要な街道であった。守山区域には街道沿いに下田街道道標・市神さん・道祖神などの街道に関わる文化財が残されている。また、現在の国道136号と併行して、中世以前の下田街道（旧下田街道）が残っている。
- 狩野川は、古くは旧石器時代から暮らしや生業に欠かすことのできない恵みをもたらす資源であった。下田街道と同様に、税や産物の舟運による運搬経路としても重要な役割を果たしてきている。舟運のために必要な船着場や、取水のための江間堰が設けられるなど、狩野川の水利用が進められてきた。
- 大仁区域に伝わる「かわかんじょう」は、狩野川に関わる伝統行事である。「田京の三番叟」・「三福の三番叟」・「大仁の三番叟」など、地域に根付く伝統芸能も伝承されている。
- 温泉は地域文化を形成してきた文化財の一つに数えられる。伊豆長岡区域にある古奈温泉の記録は鎌倉時代にさかのぼる。その後も多くの文化人が伊豆の温泉を訪れ、紀行文や小説などにも数多く登場している。
- 山川や自然の恵みを受けて、人や物の交流・交通が生まれ、伊豆の国市独自の地域文化や景観が形成されている。



富士山画賛（公益財団法人江川文庫所蔵）



かわかんじょう

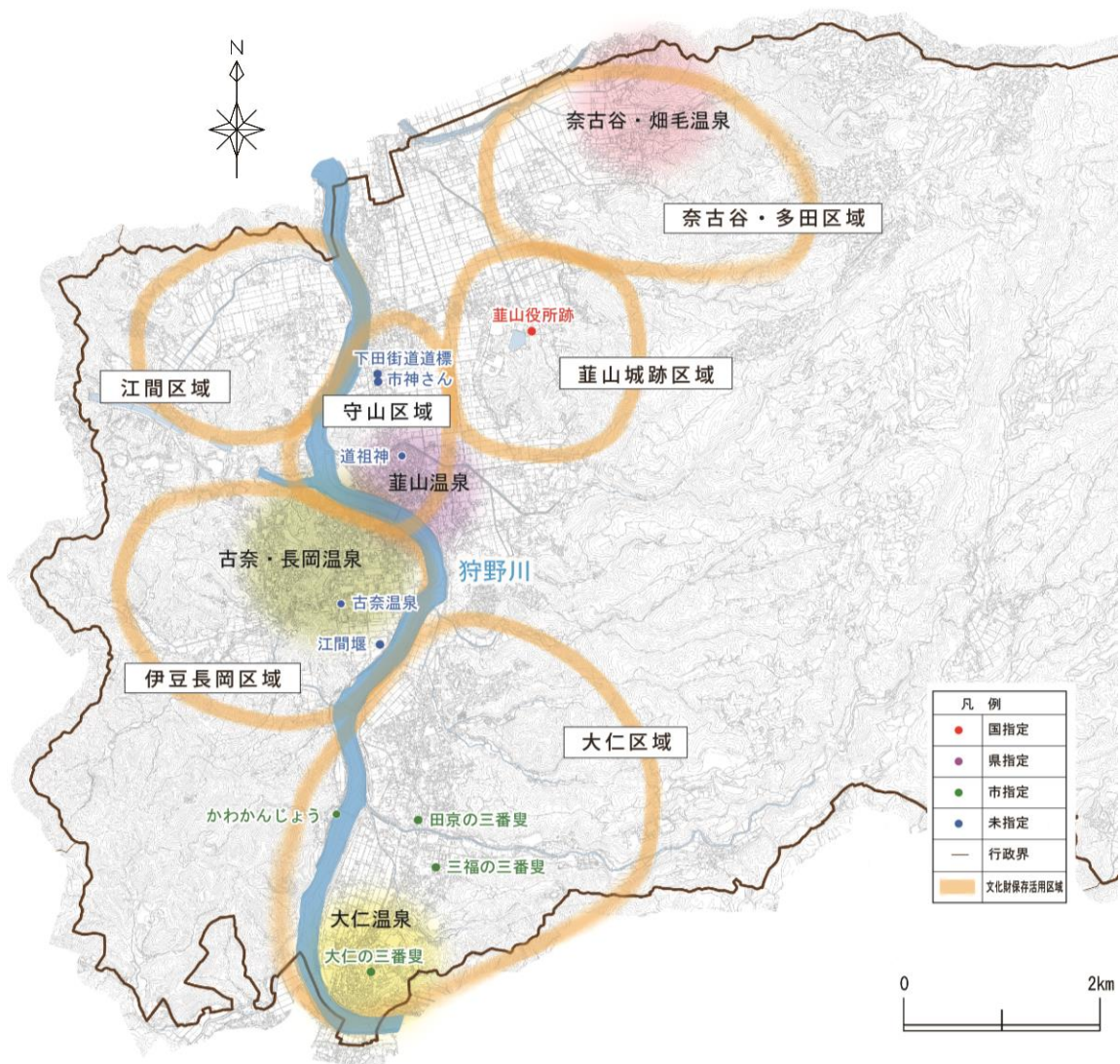


図3-7 「山川自然のもとで現代に続く地域文化」に関連する主な文化財の分布